第 25 回市町村対抗福島県縦断駅伝競走大会 だ

総合32位

村の部6位

第二十五回市町村対抗福島県縦断駅伝競走大会(ふくしま駅伝)は十一月十七日、白河市陸上競技場をスタート、県庁前をゴールとする十六区間、九十五・一書のコースで開催され、鮫川村スで開催され、鮫川村乗りに キし、エ

ヤをつなぎました。し、五十三チームがる県内全市町村が が参えが多と

· タ か と な

手一人一人がベストを尽くし、村の誇りを胸に夕 スキをつなぎました。ま た、三区を走った目黒司 さん(鮫川中三年)、七 区の須藤康太さん(同三 年)、九区の岡部花歩さ ん(同二年)が村の部区 間賞を獲得し、中学生の 活躍が光りました。

ました。大会当日は、選めるというチームで挑みめるというチームで挑みめるというチームで挑みがまとがないがあるというがした。 に貢献しよう」という思いで落ち

た、総合順位で5位になれたこと

着いて走ることができました。 岡部花歩さん (写真中央) 昨年は補欠だったので初めて走 りました。当日は、練習の成果を 出すことができました。区間賞を 獲れるとは思っていなかったの で、うれしいです。来年もふくし ま駅伝に出場したいです。 須藤康太さん (写真右)

間

ふくしま駅伝で走るのは今回で 3回目です。これまでは緊張しな がら走っていましたが、今年は3 年生ということもあり、「チーム

X

目黒 司さん (写真左)

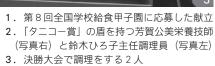
賞

に驚きました。

団結し懸命にタスキをつないだ鮫川村チーム

当日は沿道の応援のおかげで緊 張せず、気持ち良く走ることがで きました。走る前から区間賞を 狙っていたのでうれしいです。ま





決勝大会入賞「地域に残る給食」」

色を出れ

で川 大村の に特

した。 した。 など、 ど、鮫に

子園」は十二月七日、八日、東京都内で行われまり代表として二年連続四ク代表として二年連続四たした。北海道・東北ブロック代表として二年連続四たした鮫川村学校給食センターは、調理器具の有いました。 「第八回全国学校給食さや栄養価などを競 効活用に優れているとンターは、調理器具の 「第八回全国学校給 を受賞しました。 協賛企業賞「タニコー を受賞し ツま八甲う 臨みました。 決勝大会には、全国から二千二百六十六の応募 ら二千二百六十六の応募 があった中から書類審査 で調理をし、栄養バラン で調理をし、栄養バラン

いのちをつなぐ

衣に砕いた大豆を混に残る給食」をテープ 「まめみそカツ」 センター ア料理コンテストスタモカツ」、村アイ いた大豆を混ぜ 「彩りす をテーマに、「地域 ゆ イた

> 子どもたちに食材のおいした しさを

点で審査が行われました地場産物の活用などの

まで四回出場していますた。調理技術も厳しく審査されていると感じ、さらに細かいところまで神らに細かいところまで神らに細かいところまで神いと思いました」と芳賀いと思いました」と芳賀にこだわった献立を付むが地元の食材を広くアピールしてくれていることに感謝した。と話食を子どもたを最大限に生かした。を検えて、地元食材のおしずでなく、地元食材のおしずでなく、地元食材のおしずでなく、地元食材のおしずなく、地元食材のおしずなく、地元食材のおりでなく、地元食材のおりでなく、地元食材のおりでなく、地元食材のおりでなく、地元食材のおりでなく、地元食材のおりでなく、地元食材のおりでなく、地元食材のおりでなく、地元食材のおりでなく、地元食材のおりでなく、地元食材のおりでなく、地元食材のおりでなく、地元食材のおりでなく、地元食材のおりでなく、地元食材のおりでなく、地元食材のおりないと言いと言います。

回全国学校給食甲子園

第 8

(協賛企業賞)

一を受賞